

〔東都歳事記十一月〕白魚略○中 當月より春に至るまで、毎夜佃沖四ツ手網を以て白魚をとる筈

火多し、初春は海にありて二月頃川へ上る、之ら魚にあたひあるこそうらみなれ、芭蕉、

〔續江戸砂子一〕江府名産 并近在近國

佃の白魚 又麵條魚又白小と云、初春海にあつて二月の比川に上る、略○中

淺草川の白魚 むかしは此海川になかりしを、寛永の末の比、之ら魚の胤をまかせられしと也、

〔出雲風土記鳥根郡〕朝酌促戸渡、略○中 大小雜魚、濱藻家園市人四集、自然成、鄙矣、自茲以東、至于大井濱之間、南北二濱並

捕白魚水松也、

凡南入海所、在雜物、略○中 白魚、略○中 海松等之類至多、不可盡名、

〔日本紀略桓武〕延曆十五年四月乙亥、右大舍人白鳥村主得白魚於井中、獻之、任肥前史生、

〔甲子夜話十八〕白魚ハ種ヲマケバ生ズルモノナリ、嘗テ見シガ其書ヲ忘レタリ、黃門光圀卿常州

ノ川ニ、隅田川ノ白魚ヲ乾シテ取寄セ、沙中ニ埋置レケレバ、翌年白魚生ジテ其種絶ルコトナク、

隅田産ノ大サニ異ルコトナシトアリキ、又予浦清ガ領國ノ産ハ、江都ノ如キハナク、タマノ白

魚ト稱スルモノハ、細小ニシテ淡黒ヲ帶ブ、大抵西邊コノ如シ、或年ノ旅次周防小郡驛ニ宿トキ、

晩飯ニ白魚ヲ供セリ、隅田ノ産ニ異ナラズ、予驚キ問フ、コレ何レヨリ得タル、厨人答フ、驛ノ前小

郡川ノ所産ナリ、因テ其由ヲ聞クニ、里人云フ、領主萩老侯、先年此邊ノ三田尻ニ隱居ヲ占メラレ

シトキ、此魚ノ江都ニ産セルヲ好マレ、隅田ノモノヲ乾カシテ土ニイレ、此地ニ運バレ、カノ川ニ

投ジ置レシガ、明年ヨリ生育シテ、至今テ如此ト、イカニモ隅田ノ産ニ少シモ殊ナラザリシ、又頃

日字書ヲ見シニ、博物志ヲ引テ、吳王江行食魚膾、棄殘餘於水、化爲魚名膾殘、即今銀魚、コレ吾邦ノ

白魚ナルベシ、精細ノ狀ヲヨク見タテシ名ナリ、隅田川ノ産イカニモ銀魚ト云ベシ、天瀑子聞テ

曰、江都ノ白魚ハ、享保中德庵○徳川吉宗ノ勢州ヨリ取寄セ給ヒ、品川ニ蒔カレシヨリ始マレリ、是モ